

製品名: カルシニューリン A (15E13) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe07849**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明 | 組換えウサギモノクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,FC,IP |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | モノクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。 |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--------------------------------------------|
| 希釈倍率 | WB 1:1000-1:2000,FC 1:20-1:50,IP 1:20-1:50 |
| 分子量 | 59kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 遺伝子名 | PPP3CA |
| 別名 | Calcineurin A1; CalcineurinA; CALN; CALNA 1; CALNA; CALNA1; CAM PRP; CNA alpha; CCN1; |
| 遺伝子 ID | 5530.0 |
| SwissProt ID | Q08209 |
| 免疫原 | ヒトカルシニューリン A の合成ペプチド |

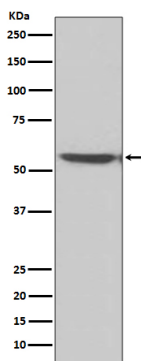
背景

カルシニューリンは、タンパク質ホスファターゼ 2B (PP2B) としても知られ、カルモジュリン依存性、カルシウム活性化、セリン / スレオニンタンパク質ホスファターゼであり、触媒サブユニット (カルシニューリン A) と密接に結合した調節サブユニット (カルシニューリン B) から構成されています。カルシウム依存性、カルモジュリン刺激性タンパク質ホスファターゼです。このサブユニットは、カルシニューリンのカルモジュリン活性化に関与している可能性があります。DNM1L、HSPB1、および SSH1 を脱リン酸化します。カルシウム依存性、カルモジュリン刺激性タンパク質ホスファターゼは、細胞内 Ca(2+) を介したシグナル伝達において重要な役割を果たします (PubMed:15671020、PubMed:18838687、PubMed:19154138、PubMed:23468591)。多くの基質は PxlIT モチーフ および / または LxVP モチーフ を含む (PubMed:17498738、PubMed:17502104、PubMed:23468591、PubMed:27974827、PubMed:22343722)。Ca(2+) レベルの上昇に反応して、ホスファターゼ SSH1 を脱リン酸化および活性化し、コフィリンの脱リン酸化を引き起こす (PubMed:15671020)。ミトコンドリアの脱分極に伴う Ca(2+) レベルの上昇に反応して、DNM1L を脱リン酸化することで、DNM1L のミトコンドリアへの移行を誘導する (PubMed:18838687)。熱ショックタンパク質 HSPB1 を脱リン酸化 (類似性による)。転写因子 NFATC1 を脱リン酸化して活性化する (PubMed:19154138)。Ca(2+) レベルの上昇に反応して、NFAT を脱リン酸化して核移行を促進することにより、NFAT を介した転写を制御する (PubMed:26248042)。転写因子 ELK1 を脱リン酸化して不活性化する (PubMed:19154138)。DARPP32 を脱リン酸化する (PubMed:19154138)。CRTC2 の 'Ser-171' を脱リン酸化して、CRTC2 を 14-3-3 タンパク質から解離させる可能性がある (PubMed:30611118)。コクサッキーウイルス B3 感染後に転写因子 TFEB の 'Ser-211' を脱リン酸化して核移行を促進する (PubMed:33691586)。

研究分野

免疫学

画像データ



A431 細胞溶解物中のカルシニューリン A 発現のウエスタンブロット分析。